

## 2005年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日2006年 1月 31日

## I 概要

実践団体・担当者名	高知県立高知東高等学校（担当者：谷内 康浩・小川 晴美）	
連絡先	高知県高知市一宮徳谷23-1 電話088（845）5751	
プランタイトル	スマトラ沖地震に学ぶ、スリランカでの津波の被害写真パネル展	
目的	<p>昨年12月26日に発生したスマトラ沖地震は、近い将来発生が予測されている南海地震と同じ海溝型の地震であり、発生した津波によって多くの被害が出ました。予測されている南海地震は、単独で起こるのではなく、東南海・東海地震と同時発生の可能性も指摘されており、そうなれば、昭和の南海地震の規模を遙かに超え、スマトラ沖地震に匹敵する規模となる可能性もあります。</p> <p>本年1月に高知県が実施したスマトラ沖地震におけるスリランカでの津波被害状況調査時に撮影された写真を展示し、本校の生徒・教職員をはじめ、本校周辺の住民も含めより多くの方々に津波の恐ろしさを実感してもらい、南海地震に備える意識の啓発の場とします。</p>	
プランの概略	<p>○パネルの展示（高知県危機管理課、高知大学から借用）</p> <p>○「地震列島とわたしたち」「地学Ⅱ」で作成した作品ポスターの掲示</p> <p>○「津波の高さ表示板」を、中校舎南西昇降口の壁面に掲示</p>	
プランの対象と参加人数	全校生徒・教職員、地域住民、近隣の小・中学校生徒、県民など	
実施日時	11月1日（火曜日）～11月10日（木曜日） 但し、3日（文化の日）、6日（日曜日）、7日（月曜日）は除く。	
主な実施場所	パネル展示：高知東高等学校本館（南校舎）1階玄関ホール 津波の高さ表示板：高知東高等学校中校舎南西昇降口の壁面	
連携した団体名、 連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	①高知県危機管理課 ②高知大学 ③一宮徳谷町内会
	連携したきっかけ・理由	①②パネルの借り入れ ③地域住民への広報
	連携団体へのアプローチ方法	以前より面識があった。
	連携団体との打合せ回数	それぞれ短時間 1回程度
	連携団体との役割分担	①②パネルの貸し出し ③地域住民への広報

## Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	11名（校内地震防災プロジェクト委員会メンバー）
	外部スタッフの総人数	0名
	主なメンバーの 役職・役割	校長（1名） 教頭（2名） 事務長（1名） 教諭（6名） 実習助手（1名）
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2006年9月～10月
	立案時間	1時間×2回
	上記のうち打合せ回数	2回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの人に見てもらうため、創立30周年記念式典（11月5日）にあわせた日程とする。</li> <li>・パネルだけでなく、生徒の作品も展示する。</li> <li>・津波の高さをイメージしてもらうため、高さの表示板を設置する。</li> </ul>	
プラン立案で 苦労した点		

## Ⅲ 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	11名（校内地震防災プロジェクト委員会メンバー）
	外部スタッフの総人数	1名
	主なメンバーの 役職・役割	校長（1名） 教頭（2名） 事務長（1名） 教諭（6名） 実習助手（1名） 一宮徳谷町内会役員（1名）
準備に要した日 数・時間	準備期間	2006年10月
	準備総時間	2時間×2回（生徒作品作成） 2時間×1回（パネル展示準備） 3時間×1回（津波の高さ表示板作成） 短時間（町内会との打合せ）1回
	上記の内打合せ回数	1回

教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	高知市立一宮小学校、高知市立一宮東小学校、高知市立一宮中学校
	どのように働きかけたか	案内ポスターの校内掲示および児童・生徒・保護者への参加呼びかけをお願いした。
	結果	案内ポスターの校内掲示および児童・生徒・保護者への参加呼びかけ。
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	一宮徳谷町内会
	どのように働きかけたか	案内ポスターの町内掲示板への掲示
	結果	案内ポスターの町内掲示板への掲示および町内放送を利用したの広報
保護者・PTAへ の働きかけ	働きかけた保護者・ PTA組織名	
	どのように働きかけたか	
	結果	
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	○機材：展示板・押しピン（パネルの固定） ○教材：パネル 津波の高さ表示板、解説等のポスター
	入手先・入手方法	○機材：展示板は校内 ○教材：パネルは、高知県危機管理課・高知大学 津波の高さ表示板・解説等のポスターは、校内で作成
	機材・教材選定の理由（なぜこの機材・教材を選んだのか）	○教材：パネルはこの団体しか保有していないため。
参加者の募集	募集方法	○校内：案内ポスター、校内放送 ○近隣小・中学校：案内ポスター、依頼文 ○町内会：案内ポスター、町内放送 ○マスコミ：案内文および案内ポスター（教育記者室へ投げ込み）
	募集期間	2006年10月
	参加予想人数	校内の生徒・教職員および一般（設定せず）
	実際の参加人数	把握できていない

	募集方法の成功点	<p>○マスコミは、高知新聞社が初日に取材し、11月2日の朝刊に掲載され、県民全体への広報ともなった。</p> <p>○11月5日の創立30周年記念式典での参加者（保護者・来賓等）に見てもらうことができた。</p>
	募集方法の失敗点	<p>○小・中学校の児童・生徒は、休みの日の公開日が1日しかなかったため、放課後では実際に参加することが難しかった。</p>
準備で苦労した点・工夫した点		<p>○感想文用紙を会場に準備して参加人数を把握しようとしたが、できなかった。（常時、人の配置は難しい。）</p> <p>○「津波の高さ表示板」の作成は、初めてであり、試行錯誤の作成となった。実際に設置すると、横風の影響を受けて、安定しないときもあり、工夫が必要である。校舎の壁面にペイントすることも今後検討。</p> <p>○パネルの展示場所を、管理の関係で事務室前の本館（南校舎）1階玄関ホールとしたが、生徒が通りがかりに見れる場所ではないため、生徒への参加を促すことに苦労した。</p> <p>○授業を活用したり、最終日の昼休みには解説会を開いた。</p>

## IV タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2004 11月			
12月			
2005 1月			
2月			
3月			
4月			
5月	○5/31 第1回地震防災プロジェクト委員会で日程確認		
6月			
7月			
8月			
9月			
10月		○10/13 危機管理課との打合せ、借り入れ ○10/22 津波の高さ表示板 作成 ○10/24 第6回地震防災プロジェクト委員会で最終確認 ○10/27 高知大学との打合せ・借り入れ 報道への案内・依頼 ○10/28 小・中学校への案内・依頼 ○10/31 パネルの準備	
11月			○11/1～11/10 パネル展実施 ○11/11 パネル返却 ○11/15 第7回震防災プロジェクト委員会で総括
12月			
2006 1月			

## VI実践後

参加者へのアンケート結果	○感想文用紙を用意したが、投稿は2通のみであった（生徒・教職員以外）。 どちらも、津波の恐さを実感し、地震への備えの必要性を記述していた。	
成果として得たこと	○単に津波の被害を写真で見ただけではなく、「津波の高さ表示板」により、津波の高さを 実感することにより、さらに津波の恐さを感じる事ができたようである。 ○生徒が作成した、スマトラ沖地震と南海（東南海・東海）地震とのメカニズムの比較、 津波への備えのポスターが、写真だけでは得られない知識習得に結びついた。 ○地域等に公開することで、東高校の取り組みを知ってもらうことができた。	
成果物	（学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。 データがあればデータファイルを貼付して下さい。） ○実施要項 ○案内ポスター ○依頼文 ○「津波の高さ表示板」写真 ○高知新聞11月2日朝刊記事	
広報方法	広報した先	高知市立一宮小学校、高知市立一宮東小学校、高知市立一宮中学校、一宮徳谷町内会、報道各社
	広報の方法	学校・町内会には直接、案内ポスターと依頼文を持参 報道には、教育記者室に案内ポスターと依頼文を持参
	取材にきたマスコミ	高知新聞社
	広報された内容（掲載された記事・番組等）	11月2日付高知新聞朝刊に掲載 町内放送で地域住民への広報（1回）
	成功点	○高知新聞が1日目に取材をしてくれ、県民全体への広報ともなった。
	失敗点	
全体の感想と反省・課題	○高知県や高知大学が保有している資料を、幅広く県民に公開して、地震への備えを広報していく上で、学校を活用することは、たいへん有効な手段である。ただし、資料の管理（常時、警備員を置くことができない）や、校内への不審者の侵入などの点に留意すべき課題はある。	
今後の予定	来年度以降の進め方	○パネル貸し出しは簡単に行えるため、機会があれば行事（文化祭等）での実施も可能である。
	是非実施してみたい取り組み	○「津波高さ掲示板」を校舎壁面にペイントで表示できれば、常時、展示・確認することができる。

<p>自由記述</p>	
-------------	--